

平成 30 年 12 月 東御市教育委員会 定例会会議録

1 日 時

平成 30 年(2018 年)12 月 20 日(木) 午前8時 58 分から午前9時 58 分まで

2 場 所

中央公民館 応接室

3 議 題

(1)協議(審議・検討)

議案第 34 号 就学援助費支給の認定について

(2)報告

ア 教育課

(ア) いじめ、不登校の状況等について

(イ) 文化財保護審議委員、文書館運営委員の委嘱について

イ 第 3 回総合教育会議について

(ア) 小中学校の学期制について

(イ) 放課後児童対策について

4 出席者

○教育長 小山 隆文

○委員

教育長職務代理者 下村 征子

委員 小林 経明

委員 小林 利佳

委員 直井 良一

○その他

横関教育次長、柳沢教育課長

小林学校教育係長、土屋青少年教育係長

畑田指導主事、長岡指導主事、若林学校教育係主査

会議録

横関教育次長

ただいまから、12月定例教育委員会を始めます。教育長から開会宣言をお願いします。

小山教育長

12月定例教育委員会の開会を宣言します。

4点に渡ってお伝えします。

まず1点目ですが、先に行われた「新体力テスト」の分析を、身体教育医学研究所が「元気通信簿」としてまとめました。分析結果から市内の児童生徒の体力的傾向が見えてきましたので、情報を共有しながら対策を講じたいと考えています。

2点目ですが、12月16日に長野県高校弁論大会が東御市中央公民館で行われました。来年、佐賀県で開催される全国高校総合文化祭の県代表を決める大会でもあり、県内の2名の高校生が選抜されました。高校生らしいやわらかい感性で物事を見つめる姿勢をつぶさに見ることができるといい機会となりました。

3点目ですが、県教育委員会では、不登校の大きな要因でもある学力不振に焦点を当て、来年度から算数・数学に特化した重点対策チームを発足させ、学校を支援したいとしています。英語・道徳の教科化を含め、文部科学省の指針に対応を迫られる昨今ではありますが、市教育委員会としても学力差が付きやすい算数・数学に対し、できる範囲で学力強化に取り組み、県と歩調を合わせていきたいと考えています。

最後に4点目ですが、不登校対策にスクールソーシャルワーカー(SSW)が非常に大きな成果を上げているとお聞きしました。現在、東信エリアに数名の配置がありますが、県教育委員会では来年度からSSWの増員と市町村への配置も検討しているとのこと。市教育委員会としても、かねてよりSSWを要望しているところであり、SSWを配置することで問題の早期発見、早期解決ができる体制を整えたいと願っています。

(1)協議(審議・検討)

小山教育長

議案第34号 就学援助費支給の認定について、説明を求めます。

小林学校教育係長

平成30年度就学援助費支給の申請について、説明します。

(説明内容 非公開)

小山教育長

異議ありますでしょうか。

全委員

異議なし。

小山教育長

議案第 34 号 就学援助費支給の認定について承認されました。

続きまして、(2)報告に移ります。順次報告願います。

(2)報告

長岡指導主事

ア 教育課(ア)いじめ、不登校の状況について報告します。

平成 30 年度 12 月末現在、不登校等の児童生徒の状況及びいじめ・いじめと思われる把握件数集計表は資料のとおりです。(説明内容 非公開)

小林経明委員

8年前から比べ、市内中学校において、不登校生徒数が大幅に改善されてきた経過があります。不登校対策について、現在どのような支援対策をしているのでしょうか。

畑田指導主事

対象となる生徒には少人数教室での個別支援をしてきました。中には少人数教室から自分の学級に戻れないケースもあるようなので、支援の仕方を見直す時期が来ていると感じます。

小山教育長

学力、人間関係だけでなく、不登校の原因が多様化してきていると感じます。学校現場ではそれぞれの原因に対する対応が迫られていますが、本質的な課題は基本である学級経営にあると分析しています。支援のあり方を見直し、学級経営の見直しを図りたいと考えています。

不登校傾向にある子どもたちの影響からか、比較的休むことに抵抗がないような児童生徒もいるように思います。

小林経明委員

次のステージに向かうために、支援の仕方について抜本的に変える時期に来ているのかもしれませんが。

市の財政状況が縮小されている中、教育にかかる予算も削減されているようですが、子どもたちへの支援に影響が出るのではと懸念しています。

畑田指導主事

不登校対策として、学習についていけない児童生徒をなくしていく取り組みを考えています。特に学力の評価が顕著に現れる算数・数学に力を入れていく計画です。

特別支援学級が対処療法としての学習支援を担ってしまっている部分もあるので、新たに学習が遅れた児童生徒を支援する仕組みづくりを考えていきます。

小山教育長

支援の仕方でも今までの取り組みでは、対処しきれないところまでできていると感じます。これ以上、不登校が増えないよう取り組んでいきたいと思えます。

下村教育委員

学校応援団の支援は継続しているのですか。

長岡指導主事

応援団の皆さんのご協力は続いています。新しい取り組みとして、放課後学習会も始めました。

柳沢教育課長

続いて（イ）文化財保護審議委員、文書館運営委員の委嘱について報告します。

文化財保護審議委員、文書館運営委員については資料のとおりです。（説明内容）

柳沢教育課長

続いてイ 第3回総合教育会議での議題内容について報告します。

本日開催の第3回総合教育会議では「小中学校の学期制」と「放課後児童対策」を議題としますのでご確認ください。

（概要）

- ・新学習指導要領実施による授業数の増、教職員の働き方改革を踏まえた施策として、小中学校の学期制について検証を重ねた結果、柞津小学校において、「これまで同様の3学期制であるが成績評価は2期制」を、北御牧中学校において、「2学期制」を試行する。
- ・文部科学省より「新・放課後子ども総合プラン」が示され、「放課後子供教室」を設け、2023年度までに待機児童の受け皿の整備が求められている。
- ・市内では待機児童がいないこと、児童館・児童クラブが十分に機能していることから、「放課後子供教室」は設置しない方向。
- ・地域を巻き込んだ独自の新しい取り組みとしての「東御市版放課後子ども教室パイロット事業(案)」を展開し、指導主事をコーディネーターに、市内高校生ボランティアを募り、各小学校において遊びを通じたリーダー育成を行う。

直井委員

県教育委員会は夏休みの延長を示していますが、市内小中学校は何日延長を見込んでいますか。授業数が増える一方で、授業時間が確保できるか心配です。

小山教育長

今年の市内小中学校の夏休みは平均で 27 日程度でしたが、来年度は小中学校で約 30 日になります。再来年度においては 33 日程度は可能になるかと思われます。授業時間の確保については、夏休み中に三者面談を設け子供たちの成長の過程を保護者と共有する他、行事や行事内容の見直しをしながら時間を生み出すよう工夫するとのことです。

総合教育会議では市長と忌憚のない意見交換をお願いします。

本日の議題は以上です。それでは、12 月定例教育委員会を閉会します。